

本当の意味での「健康しが」へ
～未来を変える みんなの一步～

危機を転機に

- コロナにより社会が抱える課題が顕在化
 - ① グローバル経済への過信 ② 市場効率主義への偏重 ③ 一極集中（都市化）のリスク ④ 感染症対策の不完全性 ⑤ 医療・保健システムの脆弱性
- 世界的な危機感の高まり
 - ① 命・健康の危機 ② 気候変動の危機 ③ 戦争・民主主義の危機
- これまで当たり前だった“つながり”が無理やり分断され、
 - ① 人と人、人と社会、人と自然が“つながる”ことの大切さ
 - ② 気候変動の進行をくい止め、今を生きる人のみならず、未来を生きる子どもたちの「いのち」と「暮らし」を“思いやる”ことの必要性 を再確認



- 今こそ、① 人々と自らの「幸せ」のために、② 私たちと地球の未来のために、③ 子どもたちや次の世代のために、自分らしく「一歩」を踏み出すとき

「ひとの未来」とつながる

- コロナ禍によって、分断された「人とひとのつながり」を取り戻す

- 長寿、身体健康だけでなく、「こころの健康」でも日本一を目指す
 - ①健康・長寿のさらなる推進

 - ②「こころの健康」のケア強化
※こころの健康＝自殺、ひきこもり、フレイル、認知症など

 - ③地域公共交通等の充実により、人や社会のつながりを確保

 - ④誰一人取り残さない（生活困窮者）

「社会の未来」とつながる

- 都市部からの人の流れを、より確かなものとし、
新しい働き方を推進
- 子ども、次世代を重視した、
「次世代とともにつくる県政」を進める
- 社会的課題解決にチャレンジしやすい滋賀をつくる

①新しい働き方に対する支援

- ・失業なき労働移動
- ・サテライトオフィスやワーケーションの推進
- ・高度専門人材の育成
- ・移住・定住の促進、関係人口の創出 など

②変化への挑戦

- ・社会的課題解決（例：グリーン成長）にチャレンジする
スタートアップ企業等の支援 など

「自然の未来」とつながる

- 2年連続で、琵琶湖の健康にとって重要な全層循環が確認できていない
- 琵琶湖から発せられる「気候変動アラーム」
- 「新たな一歩」を踏み出し、行動を起こす

①しがCO2ネットゼロの実現

- ・再生可能エネルギーの導入促進(発電所、VPP含む)
- ・RE100(使用電力を全て再生可能エネルギーで賄う)工場等の設置促進
- ・カーボンオフセット商品の開発支援
(びわ湖・カーボンクレジット利用等)
- ・脱ガソリン車の推進

「より良き自治」の追求

- コロナ禍によって弱まった身近な自治を充実・強化し、つながりを取り戻す。
- すべての取組の土台として、デジタルファースト、DXを推進

① コミュニティ活動支援

- ・テーマ型コミュニティ(NPO等)支援
- ・地縁型コミュニティ(認可地縁団体等)支援 など

② デジタルファースト(DXの推進)

- ・電子申請、電子納税(キャッシュレス)の推進
- ・ICTインフラ(人材含む)の育成 など